

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府の取組みや人材育成の重点化を踏まえて、「東大阪・八尾地域を中心とした地元産業のものづくり人材の育成」を推進するため、これまで取り組んできた文部科学省・経済産業省の「地域産業の担い手育成プロジェクト」や「工科高校との次世代産業共同研究型人材育成事業」の経験と実績をもとに、今年度から新たに「地域産業連携重点型」工科高校として再出発し、企業連携やインターンシップ等の取組みをさらに拡大していく。

生徒の育成としては、本校の生徒一人ひとりが学校の代表（主役）という認識を醸成するとともに、「人づくり・ものづくり・夢づくり」のスローガンを踏まえた取組みとして、「社会人基礎力の育成に向けた取組み」、「将来のスペシャリストをはぐくむ取組み」、「自分の進路（夢）を実現するための取組み」を行うことによって、ものづくりの基礎・基本や5Sの徹底、企業技術者による指導等により、現場におけるスキルを身に付けた高い技術・技能を持つものづくりのスペシャリストや、実践的な現場のリーダーとなる為の人材育成をめざす。

2 中期的目標

平成26年度 工科高校重点化への実現に向けて、以下の取組みを行う。

1 確かな学力の育成

(1) わかる授業、充実した授業の推進

年2回実施する授業アンケート結果を教員に示し、課題の洗い直しと改善状況の検証を行い、「わかる授業、充実した授業」を推進するとともに、ICT機器の積極的な活用を図る。専門系や教科の枠組を超えた会議の場を設定し、学力向上のために学校として取るべき方策を模索する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を80%にする。（わかる授業：H20 42%、H23 53%、H24 50%、H25 61%）（授業の工夫：H20 44%、H23 61%、H24 60%、H25 62%）

(2) 公開授業・校内研修の実施

保護者及び教員を対象とした公開授業期間を年2回設定するとともに、授業力向上のための校内研修を実施する。

(3) 基礎学力の向上をめざした取組み

全学年で実施している基礎学力調査の分析結果に基づき、基礎学力向上のための指導体制を構築するとともに、一定水準に達していない生徒に対する補習を実施する。

また、系・専科の科目における基礎技能の習得を促進する。

(4) 進学希望者の指導体制の確立

「数学」「物理」「英語」の単位数が普通科に比べて少ないため、進学希望者に対して進路指導部及び担任団が中心となった補習体制をさらに推進する。特に、工科校長枠推薦の対象となる大学への学校推薦については、校外の模擬試験を受験するとともに、校内の補習や工科校長合同講習会等に参加することを原則とし、自分の学力レベルを把握し、大学での学習に困らない学力を身に付ける意欲を喚起する。（大学進学者：H22 25名、H23 27名、H24 21名、H25 16名）

2 「人づくり・ものづくり・夢づくり」の推進

(1) 生徒指導の徹底

「こころの再生府民運動」推進のもと、礼儀を養う「あいさつ運動」を励行させ、遅刻者数の減少を図る。

※遅刻者数 年間2,000名以下を堅持する。（遅刻者数：H22 3,816名、H23 2,684名、H24 1,882名、H25 1,964名）

(2) キャリア教育の推進

H26年度入学生の教育課程から、就職希望者 原則全員「インターンシップ」への参加（参加した生徒は、(学)「インターンシップ」として1単位認定）。

（インターンシップ参加者：H22 35名、H23 42名、H24 27名、H25 117名）

企業経営者による講演会や就業体験など企業や就業について学ぶ学校設定科目「企業研究」を全系の選択科目で設定する。

(3) 就職希望者の指導体制の充実

リーマンショック以降、求人数や就職一次合格率は厳しい状況にある。就職が約8割の状況を踏まえ、教職員や生徒の努力により求人数や就職一次合格率の向上を図る。

（求人数：H20 880件、H21 525件、H22 491件、H23 550件、H24 617件、H25 636件）

（就職一次合格率：H20 84.8%、H21 65.1%、H22 62.5%、H23 67.6%、H24 75.1%、H25 73.2%）

(4) 卒業後の進路調査と対策

卒業3年後の離職率を把握し、その結果を踏まえてキャリア教育・職業教育にフィードバックし、離職率の低下を図る。

（H25調査 工科4期生（H22卒業生）の離職率：35.1% [回答数174名、回答率95.6%]、厚生労働省全国調査：高卒離職率 35.7%、大卒者離職率 28.8%）

(5) 人権教育・支援教育・教育相談の連携

個々の組織は積極的に活動しているが、点から線、線から面への連携が必要である。連携を図る体制づくりを行い、生徒によりよい支援ができるように取組みを行う。

(6) 中退率の減少

生徒の授業態度について、学習に取り組む姿勢や意欲が向上するよう、クラス担任・学年主任・中退防止コーディネーター・支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー等が連携し、課題の早期発見と家庭との連携を深め、中退率の減少を図る。

※中退率3.5%以内とする。（中退率：H23 7.2%、H24 5.6%、H25 7.0%）

(7) 資格取得の拡大

校内組織を活性化し、資格取得の拡大を図っていく。（資格取得数：H23 697名、H24 1,081名、H25 1025名）

「配管」技能検定取得者数の工業高校日本一、引き続き技能五輪全国大会「配管」競技出場をめざす。

（H23 2級2名・3級27名、H24 2級4名・3級29名、H25 2級9名・3級27名）

学校経営推進費事業「めざせ！ものづくり集団、日本一」及び、ICTを活用した先進的学習プラン事業に基づき、上位資格・検定へのチャレンジを促進し、ものづくり技術レベルの向上と生徒への指導法をブラッシュアップする。

(8) 交通安全教育の推進

約9割の生徒が自転車通学であり、自転車保険を積極的に推奨するとともに、布施警察署の協力のもと、引き続き交通安全教育を推進し、大きな自転車事故ゼロをめざす。

3 魅力ある学校づくり

(1) 中学校訪問の徹底・塾訪問等の拡大

中学校や塾の訪問・中学教員の見学会等を通して、工科高校の魅力と本校の特徴を理解してもらい、本校を受験する中学生の増加を図る。

※入試倍率を1.2倍以上とする。（入学生：H23 1.05倍、H24 1.17倍、H25 1.09倍、H26 1.22倍）

(2) 地元企業との連携の充実

工科高校重点化の取組みとして、ものづくり企業が集まる東大阪・八尾地域を中心に一層の企業連携を図り、キャリア教育・職業教育の指導を向上させる。

(3) 出前授業等の拡大

ものづくり教育や本校の良さを知ってもらうため、中学校出前授業や保護者説明会等に積極的に参加するとともに、個別対応での学校見学も行う。

（参加件数：H22 6回、H23 9件、H24 12件、H25 16件・個別対応14件）

(4) 学校Webページの充実と携帯メールの活用

学校Webページは、今後とも中学生・保護者や府民が参考となる情報提供に努め、更新回数も50回以上したい。保護者向け携帯メールへの情報発信を拡大する。

また、新たに府立工科高校生徒による協働プログラム開発環境を整備すると共に、各種関係者が双方向で活用できるWebサイトへと刷新する。

(5) 情報提供の充実

報道機関等に対して情報が提供できるように、緊急時も含めた校内での情報共有化と体制づくりを行う。（H22 0件、H23 8件、H24 9件、H25 20件）

学校経営推進費事業により、ステージレベルの高いレースでの優勝または上位入賞を果たすことで本校の技術力の高さをアピールし、知名度向上→入学希望者増、進路先拡大をめざす。

(6) 部活動の活性化

部活動の加入率を向上させ、「文武両道」の精神を醸成し、その結果としてのものづくりへの興味・関心を高めさせる。（H22 42.3%、H23 39.6%、H24 43.5%、H25 42.3%）

学校経営推進費事業により、工科高校らしい部活動（同好会活動）の活性化により他の部活動の意欲を励起し、部活動加入率向上と、他生徒の「自分にもできそうだ」という意識向上につなげる。

(7) 生徒会活動の推進

生徒会執行部が中心となった体制づくりを更に推進し、体育祭や文化祭など生徒全員が一致団結した取組みを図る。

(8) 安心・安全な学校づくり

学校保健委員会と職員安全衛生委員会を充実させ、保護者や学校三師とともに「安心・安全な学校づくり」を推進する。

(9) 危機管理の徹底

多重の安全管理、緊急対応等を踏まえた危機管理の徹底を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校生活】 [パーセントは <u>生徒/保護者</u> を表す]</p> <p>○「学校が楽しい」の回答は、肯定 63%/80%、否定 19%/8%である。昨年度との比較では、肯定 7%down /2%up、否定 5%down/11%down である。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。生徒が楽しく学べる環境をさらに構築し、学力アップや遅刻の改善等につながるよう、更なる充実を図りたい。</p> <p>【学習指導】 [パーセントは <u>生徒/教職員</u> を表す]</p> <p>○「わかる授業」の回答は、肯定 54%/82%、否定 17%/12%である。昨年度との比較では、肯定 7%down /3%down、否定 14%down/2%up である。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。依然として生徒と教員とのかい離がある。このことを教員が理解したうえで、一層わかりやすい授業づくりを推進する必要がある。</p> <p>【生徒指導】 [パーセントは <u>生徒/保護者</u> を表す]</p> <p>○「厳しい」の回答は、肯定 59%/61%、否定 19%/17%である。昨年度との比較では、肯定 10%down/11%down、否定 5%down/4%down している。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。厳しいというイメージが若干薄れてきている。生徒・保護者の期待する厳しさや指導について見直しと確認をする必要がある。</p> <p>○「納得できる」の回答は、肯定 60%/73%、否定 20%/19%である。昨年度との比較では、肯定 10%down/7%down、否定 5%down/7%up している。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。保護者の否定率がアップしている部分については、保護者への連絡・対話を密に、更に充実する必要がある。</p> <p>【キャリア教育】 [パーセントは <u>生徒/保護者</u> を表す]</p> <p>○「インターンシップ等の取組み」の回答は、肯定 61%/71%、否定 22%/22%である。昨年度との比較では、肯定 2%down/17%down、否定 5%down/9%up している。</p> <p>▼今年度「インターンシップ」の取組に関しては、2年生224名の参加。大幅増を行った。今後、工科高校重点化の取組みとして、原則就職希望者は全員参加とする予定である。</p> <p>【進路指導】 [パーセントは <u>生徒/保護者</u> を表す]</p> <p>○「職業観・勤労観の育成」の回答は、肯定 70%/79%、否定 14%/15% である。昨年度との比較では、肯定 8%down/3%down、否定 4%down/3%up している。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。職業観・勤労観の育成について更に充実を図りたい。</p> <p>【人権教育】 [パーセントは <u>生徒/教職員</u> を表す]</p> <p>○「学ぶ機会が多い」の回答は、肯定 63%/47%、否定 18%/20%である。昨年度との比較では、肯定 10%down/15%down、否定 3%down/13%down している。</p> <p>▼昨年度に比べて、肯定及び否定とも減少している。人権教育は、3年間を通して教育活動を実践している。今後も、より高い教育効果が得られるような改善を図りたい。</p>	<p>第1回 (6/11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートについて、中には無責任な解答をする学生もおり、誤った統計結果にならないよう考えなければならない ・アンケートの選択肢が分かりにくい ・学生が遅刻する理由は生活習慣に原因があるのではないかな？ ・親が模範となる生活習慣を行い、子供に促せるか PTA で議題として検討しておく ・現在の産業界について、学生だけでなく中学校の先生方にも解って頂けるような説明が必要ではないか。 ・昨今、若い人は中々現場に来ない、もっと連れてくる場を作るべきである ・公務員への就職は少ない、希望者も少ないのか？ ・卒業後就職した生徒の離職率データはあるが、進学した生徒の大学の退学率はどうか？ ・詳しく調べていないが、あまり聞かない ・大学に入るまで1ヶ月程補習などを考えてみてはどうか？ <p>第2回 (10/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断で生徒は何をもって『満足』とするのか。満足の定義というはあるのか？ ・伸びしろというのを見てあげて、伸ばしていくのが大事。 ・プラスに考える方向性や目標を考えるのが大事なかもしれない。 ・中退率というのは、いつでなのか。(入って3か月後とか) ・地域連携ということで、就職先で東大阪が多いのか？ ・就職とかの目標値は特に定められていないのか？ ・卒業生に PTA から皆勤賞を送っている。 ・皆勤賞の生徒も増えている。 ・地元企業との連携の充実でインターンシップは東大阪の中でしているのか？ ・企業からの(技術的な)質問とかはないか？ ・工業高校のポテンシャルがあるので、悩みに対してテイクできればいいのでは？ ・そういうノウハウを伝えれば、企業にも役に立つ。 ・何名かのドロップアウトもあるので、キャリア委員会での総括で課題として挙げている。 ・専門家の派遣、技術指導などは産業技術センターにあり、学校には少ないだろう。 ・工業高校でもこんなことができるというのを出示しては。 <p>○進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職準備を早く始めた学生が比較的的成功している。早いのはいいことかなと思う。卒業後も面倒見るのか、どこまで面倒を見るのか？ ・うちの子は合格したのだが、何から何まで指導してもらえたので、その中で成長してくれたので(保護者として)よかった。 <p>第3回 (2/9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについて、先生方非常にご苦労されて今回このような数になったことに敬意を表す。それと企業訪問も先生方非常に尽力されていて頭が下がる。資格取得者数については絶対数で出されているが、生徒全体の中で資格を取得している生徒の割合(%)を指標としてそれを経年変化でとらえてはどうか？ ・校長先生言われるいじめ発生件数目標0件を見直し、予兆発見に重点を置くということだが、現在いじめが生じたときに相談できるみたいなどころはあるのか？ ・任意自転車保険を勧めている点について、もう少し学校として用意して推奨していることを強調してはどうか？ 昨今の自転車事故が起きた場合の補償額が大きいことから説明してはどうか？ ・台風、地震など災害発生時に、登校すべきか否かどうすればよいか、タイムリーに情報提供される生徒も対応しやすいだろう。 ・学校のPRについて、例えばゲームができるとか、ゲームが作れる等で興味をひくことで入学を希望する中学生も増えるのではないかな？ また学校に行く楽しみにつながるかもしれない。部活動を前面に出すと体育会系の厳しそうな印象を与えやしないだろうか？ ・工科高校に行く意義をうまく伝えて、入学のモチベーション高める必要がある。大学も同様であるが公にしていない。もともとモチベーションが高い学生は、よくわかっており、講義・ゼミ・研究・部活動(サークル活動)等全部一生懸命やって良い人生を歩んでいるように思う。そのようなモチベーションの高め方を伝えられれば、という思いは強い。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) わかる授業、充実した授業の推進</p> <p>(2) 公開授業・校内研修の実施</p> <p>(3) 基礎学力の向上をめざした取組み</p> <p>(4) 進学希望者の指導体制の確立</p>	<p>(1) 授業アンケート（年2回実施）を活用し、課題の洗い直しと改善状況の検証をPDCAサイクルによって行う。「わかる授業」の推進とICT機器の積極的な活用を図る。 指導教諭を中心に専門系や教科の枠組を超えた会議の場を設定し、学力向上のために学校として取るべき方策を検討する。 各専門系や各教科で「わかる授業」についての意見交換を行うとともに、具体的な方策について検討する。</p> <p>(2) 教員及び保護者を対象とした公開授業期間を年2回実施し、アンケートを行う。 授業アンケートを踏まえて授業力、指導力向上のための校内職員研修を実施する。</p> <p>(3) 平成25年度 全学年に導入した基礎学力調査において、基礎学力の年度別変化と経年変化を把握・分析し、生徒の実態に合った学力向上のための指導を行う。 1年生で義務教育段階の「学び直し」を行う。数学の小テストを各HRで定期的実施し、一定水準に達していない生徒に対しては、全教員が分担して放課後に補習を行う。 更に、ICTを活用した先進的な学習環境構築により世界実質標準のAndroidプログラミング技術の習得を図る。</p> <p>(4) 年度当初に進路指導部と担任団が中心となり、進学希望者の補習体制を確立して指導を行う。なお、工業系大学の推薦者は、外部模試と工科高校合同講習会等への参加を原則とする。</p>	<p>(1) 学校協議会・PTAのアンケートを実施 生徒アンケートを授業改善に活かす(H25年度生徒アンケート年2回) カリキュラム委員会、各教科・系会議の活用</p> <p>(2) 公開授業期間を1,2学期各1回設定する(H24年度:1回、H25年度:2回) 授業アンケートを踏まえた職員研修の実施(H24, H25年度:各2回)</p> <p>(3) 基礎学力調査の全学年実施(H23年度:1年生、H24年度:1,2年生、H25年度:全学年) 1年生対象の「学び直し」補習の実施(H24, H25年度:実施) Androidプログラミングの課題研究での実施</p> <p>(4) 補習体制の確立と、報告の徹底(H24・H25年度:一部実施)</p>	<p>(1) 学校協議会は年3回実施、第3回目は2/9の予定。(○) 委員による授業見学は、開催時間の都合で実施できず。(△) 6月教員間の授業見学期間(1週間)。(○) 10月PTA学級委員会と保護者授業公開の日を合わせて会議を実施。(○) 授業アンケートは7月・12月に1クラス2回実施。個票、科・系・教科・学年・クラス毎の結果を配付し、授業改善についての意識改革も促した。アンケート結果も大幅に改善した。(○)</p> <p>(2) 10月保護者授業公開(2日)にアンケートを実施。(○) 本校に依頼された初任研、10年研の研究授業の活用。(○) 臨床心理士によるカウンセリング研修を実施。(○)</p> <p>(3) 基礎学力調査を3年生まで拡大し、全学年で実施。(○) 基礎学力の定着を図る取組み(補習等)を9月以降に実施(放課後)。(○) 数学基礎の10～7級合格者の賞状(認定書)の配布(見える化)を実施。(○)</p> <p>(4) 工業系大学の推薦希望者はほぼ全員が外部模試および工科高校合同講習会に参加。(○) 大学進学者は14名。進路指導部中心に10月から補習体制を確立。(○) 実力テストは実施せず、学習報告は聴き取りを継続中。(△)</p>

府立布施工科高等学校

<p>2 「人づくり・ものづくり・夢づくり」の推進</p>	<p>(1) 生徒指導の徹底 (2) キャリア教育の推進 (3) 就職希望者の指導体制の充実 (4) 卒業後の進路調査と対策 (5) 人権教育・支援教育・教育相談の連携 (6) 中退率の減少 (7) 資格取得の拡大 (8) 交通安全教育の推進</p>	<p>(1) 生活指導部と担任団の連携。社会人になることをイメージさせ、挨拶の励行、頭髪や服装のチェックを徹底する。 「朝のおはよう指導」を含めた「あいさつ運動」を継続し、遅刻の減少を更に図る。 (2) 従前は2年生を中心に「インターンシップ」を実施した。工科高校重点化に伴い、H26年度入学生から就職希望者原則「インターンシップ」への参加。校内体制の確立と生徒の職業観・勤労観の育成を図る。 (3) 進路指導部と3年担任団の連携を密にし、就職希望者に対する指導や就職試験等の徹底を図り、就職一次合格率を高める。 (4) 進路指導部が中心となり、全教員により企業訪問や開拓 進路調査として、就職者は離職調査、進学者は卒業後3年目まで対象とした状況調査を実施する。その結果をもとに対応策を図る。 (5) 教員間での連携を密にし、いじめに対する迅速な対応を徹底する。 学校いじめ防止基本方針、いじめ対応マニュアルを参考に、支援を必要とする生徒に対しては、保護者、外部関連機関との連携を推進するとともに、校内での支援体制を図る。 (6) 2月の合格発表後、新1年担任団と運営委員会メンバーで合格者の全中学校を訪問する。 課題を抱える生徒については、必要に応じて出身中学校との情報交換を行う。 ガイダンス教科である『キャリア設計』の授業でアサーショントレーニング（自分も相手も大切にしようとする自己表現訓練）を行うなど、「人間関係づくり」を推進する。 担任・学年主任・中退防止コーディネーターの連携のもと、中途退学に至らないための指導を更に充実する。 (7) 首席・系長を中心とした資格取得推進委員会を活性化し、校内的な視点に立った取組みを推進するとともに、取得拡大を図る。 「配管」技能検定2級・3級の取得者数については日本一をめざす。技能五輪全国大会「配管」競技については今年度も出場をめざす。 上位検定（旋盤技能検定2級、JIS溶接評価試験専門級SA-2F等）への挑戦を図る。 更にICTを活用した先進的な学習環境構築事業で資格取得対策アプリの開発・活用を図る。 (8) 生活指導部が中心となり、地元警察と連携を行い特に自転車に関する安全教育を推進する。</p>	<p>(1) 遅刻者数の1割減（H23年度：2,684名、H24年度：1,882名、H25年度：1,964名） (2) インターンシップ参加者数増（H24年度：27名、H25年度：「高井田モノづくり体験塾」6名含め117名） (3) 就職一次合格率の1割増（H25年度：合格率73.2%） (4) 企業訪問や開拓を行った教員数と訪問件数（H25年度：86名中84名、279社訪問） 進路調査の実施（H25年度：H22年度卒業生の離職率35.1%、進学は過去3年間調査36/100名不明） (5) いじめ案件を0件（H25年度：2件） (6) 合格者の中学校訪問（H24年度：76校、H25年度：68校） アサーショントレーニングの実施（H25年度：1学年で実施） 中退率の減少（H25年度：中退率7.0%） (7) 資格取得数の1割増（H25年度：1025名） 「配管」技能検定2級・3級の取得者数（H25年度：2級9名・3級27名合格） 技能五輪全国大会「配管」競技への出場（H25年度：2名） ジュニアマイスター取得者数増（対前年比10%増） 第二種電気工事士、工事担任者DD第3種、危険物取扱者取得者数10%増 (8) 交通安全教育講習会の実施 年間を通じた啓発指導（H25年度：講習会2回、啓発指導5回、1年生「保健」授業での啓発指導3時間）</p>	<p>(1) ・学年・系との連携により、遅刻者は2学期末で1,112名（前年度同時期より4割減）今年度1,000名程度になる可能性大である（◎） (2) ・インターンシップには224名が参加し、目標達成。（◎） ・支援を必要とする生徒については、保護者・担任・進路指導部との連携により、就職に向けて考査中のインターンシップを実施。（○） (3) ・就職一次合格率は80.2%で、前年度より7.0%上昇し、工科高校第5位。（△） (4) ・企業訪問は86名中86名で、256社を訪問。（○） ・卒業3年後の離職状況調査を実施し、離職率は43.4%[回答数176名、回答率96.7%]。（◎） ・4年生大学進学は、過去3年間実施。なお、約1/3の卒業生に連絡が取れず。（○） (5) ・いじめ案件は1件、0件という目標は達成できず。（△） (6) ・合格者のいる中学校85校を訪問。（○） ・アサーショントレーニングを1年生で2回実施。（◎） ・転学22名、退学33名、中退率6.53%（△） (7) ・資格取得者数は799名（△） ・「配管」技能検定合格者は3級18名、2級1名（○） ・技能五輪全国大会「配管」競技に3名出場【工科高校生として2年連続出場】で、目標達成。（◎） (8) 新入生登校日・夏休み運動部対象・1学期終業式に警察による安全講習会3回実施（実技含）。3学期1年生保健授業にて4時間実施予定 ・学校保健委員会を年2回実施。（○） ・職員安全衛生委員会を年2回数実施。（○） ・安全点検を年3回実施。（○） ・地震と火災を想定した防災訓練を年1回実施。（○）</p>
-------------------------------	---	--	---	--

府立布施工科高等学校

<p>3 魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 中学校訪問の徹底・塾訪問等の拡大 (2) 地元企業との連携の充実 (3) 出前授業等の拡大 (4) 学校Webページの充実と携帯メールの活用 (5) 情報提供の充実 (6) 部活動の活性化 (7) 生徒会活動の推進 (8) 安全・安心な学校づくり (9) 危機管理の徹底</p>	<p>(1) 9, 10月に全教員で東大阪市・八尾市を中心に地元の中学校を訪問し、情報交換を行い、中高連携を強化する。 東大阪・八尾地域の塾を訪問し、工科高校の魅力と本校の特徴を理解してもらう。 中学校の教員に工科高校の魅力を知ってもらうため、教員対象の見学会を実施する。 (2) 企業見学・インターンシップ・学校設定科目「企業研究」等において、地元企業や経済団体と連携し、求人の拡大を図る。 (3) 本校では、東大阪市・八尾市からの生徒が約8割の状況を踏まえて、近隣市の中学校に対して出前授業や学校説明会等を積極的に行う。また、冬季休業時期にも説明会を行う。 (4) ICT係が中心となり、部活動顧問と連携し、部活動の成績などの学校Webページを更に充実する。 保護者から要望のあった携帯メールでの学校情報発信を、学年単位や学校単位へ拡大する。 更に、ICTを活用した先進的な学習環境構築事業にて、アプリをオープンソースライクに協働開発する環境を整え、府立高校生徒によるアップグレードを図っていく。 またこの新たな取組の对外発信と各関係者が望む双方向性を担保したwebサイトにする。 (5) 報道機関等への情報提供を迅速にできる体制づくりを行う。 昨年度に引き続き、報道機関への情報提供を積極的に行う。 (6) 生徒会・部活動顧問・ICT係が中心になり学校Webページを充実させる。さらに、出前授業、学校説明会等で積極的に部活動のPRを行う。 生徒会・1年担任団・部活動顧問が中心となり、クラブ別オリエンテーションとクラブトライアルウィークを行い、部活動への参加を積極的に進めるとともに、部活動加入率を向上させ、活性化を図る。 (7) 生徒会執行部が中心となった体育祭、文化祭、布施工しゃべり場活動の充実を図る。 (8) 学校保健委員会と職員安全衛生委員会を活用し、保護者や学校三師とともに「安心・安全な学校づくり」のための意見交換を行う。 施設・設備の安全点検を全教職員で実施し、不備・破損箇所の改善や修理を速やかに行う。 地震・火災の発生に備えての防災訓練を実施するとともに、学校の諸活動を通して防災教育を推進する。 (9) 安全第一のもと、外部からの意見も参考に、安全対策の見直しと改善を行う。 危機対応マニュアルの見直しと徹底を行う。</p>	<p>(1) 中学校訪問の徹底 (H24年度：85校/76校 [合格校数]、H25年度：56校/66校 [合格校数]) 塾訪問の拡大 (H24年度：67件、H25年度：74件) (2) 連携した企業・団体の件数 (H25年度：102件) (3) 出前授業や学校説明会等の回数の3割増 (H25年度：16件・個別対応14件) (4) 学校Webページの充実 (更新目標回数：50回以上) 保護者あて携帯メールをクラス単位から学年単位・学校単位へ拡大 府立高校生のアプリ開発参加表明：工科9校 Page Viewでの測定：20%増 (5) 体制づくりと校内の徹底 (首席・系長中心) 情報提供の拡大 (H25年度：15件) (6) 部活動加入率の拡大 (H25年度：42.3%) (7) 生徒全員による取組み (H25年度：ペットボトルキャップ集めによるユニセフへの募金活動。H26年度も継続するとともに、PTA・地域公共施設・役所等と連携を図る) (8) 学校保健委員会の実施回数 (H25年度：2回) 職員安全衛生委員会の法令順守の徹底 安全点検の複数回実施 (H24, H25年度：3回) 防災訓練の実施 (H24, H25年度：1回) (9) 外部からの意見聴取 危機対応マニュアルの指導徹底</p>	<p>(1) ・中学校訪問を9～10月に85校実施。(△) ・塾訪問を11～12月に81件実施。(○) (2) ・連携した企業・団体の件数は144社で、1.4倍増。(◎) (3) ・公立高校進学フェア1回、3学区合同説明会1回、国公立進学相談会1回、産フェア説明会1回、出前授業7回、学校見学会1回、学校説明会5回、地区別PTA協議会主催説明会3回の計20回を実施。さらに、中学校別個別対応の学校見学6回を実施。目標達成(○) (4) ・学校Webページの更新日を記載し、83回更新。(◎) ・携帯メールでの情報を、クラス・学年・学校へと拡大。(○) (5) ・情報提供は12件。(△) (6) ・部活動加入率は47.5% (5月末現在) で、目標未達成。(△) (7) ・昨年度に引き続き、生徒全員によるペットボトルキャップ集め (世界の子どもたちにワクチンを!) を実施し、目標65,000個に対して、PTA等の協力も含め、約53,000個 (12月末現在) を回収。(△) (8) ・学校保健委員会を年2回実施。(○) ・職員安全衛生委員会を年2回数実施。(○) ・安全点検を年3回実施。(○) ・地震と火災を想定した防災訓練を年1回実施。(○) (9) ・危機対応マニュアルを作成し、全教職員に配付。(○)</p>
------------------------	--	--	--	---